

# 令和6年度 第1回ニセコ町観光審議会 議事録

## 1 日 時

令和6年（2024年）11月28日（木） 10:00～12:05

## 2 場 所

ニセコ町役場 1階 多目的ホール

## 3 出席者

委 員 下田委員、菊井委員、高久委員、岩崎委員、高井委員、桑添委員、  
スコット委員、石黒委員、若杉委員、向田委員、長谷川委員、吉村委員  
(12名)

ニセコ町 片山町長、山本副町長  
(事務局) 商工観光課 馬淵課長、三上参事、川埜係長、米田主査、  
鈴木主任、太田地域おこし協力隊

## 4 内 容

### (1) 片山町長挨拶

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。これまで観光審議会でご議論いただいた観光振興ビジョンや宿泊税について一步一步着実に動いているところである。

ニセコ町も認定を受けているBTVの自治体協議会が立ち上げられ、第1回の会合が先日岐阜県白川村で開催されたが、第2回はニセコ町で開催されることとなった。BTVで世界の観光を先導していきたいというのがUN Tourism 駐日事務所の願いでもあるので、白馬村などほかの自治体とも連携して盛り上げていきたいと考えている。

昨年度、デロイト トーマツ社にニセコルールと景観条例の社会的価値を分析いただいたのだが、ニセコルールについては、町民・日本人観光客・外国人観光客いずれも評価は高い中で、特に外国人観光客の評価が高かった。一方で、景観条例については、特に町民の評価が高く、町民自身がニセコ町の景観を守ることに大きな誇りを持っているのではないかと感じ、こうしたシビックプライドの醸成が、将来のオーバーツーリズム対策等にも大きく寄与するのではないかと考えているところである。

現在まちづくり懇談会を開催中で、人口は増加傾向にあり、公的住宅の整備等もあり今後の増加にも期待している。また、比例して税収も伸びており、昨年度は過去の6億円台をはるかに超え、約10億円の税収であった。あわせて財政の状況についても、好転しつつあるという状況であることを情報提供している。

みなさまのご努力のおかげもあり、様々な取組にお礼を申し上げますとともに、本日の審議会でも多様なご意見を賜ればと考えているので、よろしくお願ひしたい。

## (2) 議題 1

「観光客の行動変容に向けた取組について（資料 1）」について事務局より説明を行った。

### 〈米田主査〉

まず、KPI の進捗状況について、2028 年度に目指していく目標を、全部で 6 つ掲げているので、それぞれの進捗を説明申し上げる。

指標 1：観光消費額について、2028 年度目標：530 億円に対し、2023 年度の消費額は 501 億円であった。2022 年度は 532 億円とすでに目標を達成しているが、コロナ明けのリベンジ消費によるものと考えており、実績としては前年度比マイナスとなった。すでに目標を一度達成しており、また今のところ消費額が順調に推移しているため、目標の見直しを来年度検討できればと考えている。

指標 2：延べ宿泊者数について、2028 年度目標：80 万人に対し、2023 年度の延べ宿泊者数は 58.1 万人とコロナ前を超える水準であった。オフシーズンの底上げや、日帰り客の宿泊化等により、目標を達成できればと考えている。

指標 3：観光客満足度について、2028 年度目標：30%に対し、2023 年度の実績は 31.5%であった。2022 年度、2021 年度と比較すると、減少はしているものの、目標自体は達成しているため、指標 1 同様に見直しを検討できればと考えている。

指標 4：リピーター率について、2028 年度目標：70%に対し、2023 年度の実績は 78.8%であった。地域の魅力の掘り起こしを行い、新規顧客の開拓により、目標を達成できればと考えている。

指標 5：宿泊者 1 人 1 泊当たり CO<sub>2</sub>排出量について、2028 年度目標：15.3%に対し、2023 年度の実績は 28.6%であった。この指標は環境負荷を軽減する取組により、町の環境モデル都市アクションプラン 2030 年目標の前倒しでの達成ということで、昨年度の審議会でも新規設定した指標である。2021 年度、2020 年度の実績が高くなっているが、数値の算出は、延べ宿泊者数で割り戻すため、コロナ禍で観光客が少なかったことによるもので、足元ではコロナ前水準に戻ってきている。

指標 6：観光で生活が豊かになると思う町民の割合について、2028 年度目標：60.0%に対し、2023 年度の実績は 48.5%であった。2023 年度が 2 回目の調査だったが、町民生活の質を高める取組等により、目標を達成できればと考えている。

続いて、観光に関する施策の展開状況として 2023 年度、2024 年度に取り組んだ施策について、掲げている 3 つの基本戦略及び基本戦略に紐づく施策の方向性に沿って、簡単にご紹介させていただく。

基本戦略 1：観光産業の安定的な経済活動と地域貢献について、方向性 1-1 で掲げる季節変動の平準化と雇用の安定ということで、夏を盛り上げるべく、農政課と連携し、町内の絶景を、町内のお野菜を使ったワンハンドフードと一緒に楽しんでいただく「ベジピック」や、町内のスポットを AI 北斎という技術を用いて、イラストにし、町内を周遊してもらう「AI 北斎スタンプラリー」といった取組を実施したところ。他にも人手不足対策として、昨年度より特定地域づくり事業協同組合の検討ということで、今年度より企画環境課地域連携係に所管変更となったが、引き続き連携して検討を進めている。方向性 1-3 の観光事

業者の地域コミュニティへの貢献では、企画環境課が環境省の補助金の採択を受けたため、その上積み等について検討しているところであるが、後ほどご説明させていただく。

基本戦略2：観光客の多様な価値観への対応と受入環境の整備について、方向性2-2の観光客・町民の地域資源への理解促進では、2023年度にGreen Destinationsのシルバーアワードを受賞している。2-3の安全で快適に観光できる受入環境の整備では、昨年から実施している冬季タクシー不足対策の、11台⇒20台への増大や、飲食店情報のデジタル上での情報発信、綺羅乃湯におけるAIカメラ活用による混雑状況の可視化などに取り組んでいる。

基本戦略3：観光によって町民生活の質を高めるについて、方向性3-1の観光客の環境配慮型行動の喚起では、ニセコールの周知や、食べ残し商品を持ち帰っていただくためのドギーバッグ作成を観光協会との連携のもと実施した。方向性3-2の地域の魅力や観光の取組の情報発信では、昨冬に「ニセコでラーメン3,000円、おにぎり1,000円」といった報道が連日なされて、あたかもニセコエリア全体でそうだと捉えられるといったこともあり、その対策として、Youtuberを活用したインフルエンサーマーケティングを実施し、再生回数：約35万回、コメント数：約300件と一定程度の反響はあったと考えている。

続いて、ニセコ町の国際認証に関する状況について、これまでGreen DestinationsのTop 100 storiesやシルバーアワードの受賞、UN Tourism ベストツーリズムビレッジの認定、日本版持続可能な観光ガイドライン申請など、様々な取組を行っている一方で、地域の方々から「アワードの受賞はわかったけれど、それは何なのか」といった声をよくいただくので、今後の課題としていかに広報していくかというのが挙げられる。

最後に、観光振興ビジョンの今後のスケジュールについて、2025年度がちょうど折り返し期間に当たる。そこで、2025年度に中間点検ということで、指標の見直し等を実施できればと考えているので、また審議会でご相談させていただきたい。また、関連して、京都市が「私たちの暮らしと京都観光」という市民の暮らしと観光産業の結びつきに関する資料を、わかりやすい内容で作成している。自治体としての規模が異なるため、参照可能な統計の数などにも違いはあるが、わかりやすい形での情報発信を行いたいと考えているので、イメージとして紹介する。

中間点検に向けてや、町民に伝わっていない情報などについて、この場でもみなさまからご意見をいただくとありがたい。

### (3) 意見交換（議題1）

議題1について、意見交換を行った。

#### 〈委員〉

ニセコの自然に助けられ、約25年間ガイド業をやってきて、夏は約5名、冬は約10名のスタッフを抱えているが、半分近くのスタッフはニセコに居住しており、お客様は約65%が日本人で、リピーターは約3割と、ファンの方に愛されていると自負している。

現在の悩みを共有させてもらえればと思うが、産業の高価格化を肌で感じてきている。コロナ禍でも1人も解雇せず、事業を継続してきているが、海外の同業者は価格自体もか

なり高価というのが現状である。自由競争なのでやむを得ないと思う反面、サービスの価格差が出てくると、賃金にも比例してくるため、我々としても値上げを検討しないといけなくなるが、高価にすれば、これまで利用してもらっていた国内の方々が離れていってしまうのではないかと懸念している。解決策を持ち合わせているわけではなく、町として日本人を雇った分の補填や、外国資本等に対してある種の関税のようなものを課すのも危険と思う反面、事業者の努力だけでは埋められない差が生まれてきているのではないかと感じている。将来が長い若い世代や子育て世代は、当然高い賃金を選ばざるを得ないと思うし、雇用の安定化を図れないという実態が、ニセコの魅力の裏側に潜んでいると感じている次第である。

#### 〈委員〉

これまで誘客に向けた取組を役場や観光協会が実施する中で、我々事業者も一緒になって行ってきた実績もあるわけだが、果たしてその取組が地域の他の事業者や町民にどこまで届いていたんだろうかというのをあらためて感じたところである。時間の問題などで難しい部分もあったかもしれないが、周知という部分で反省すべき点や課題はあるのではないかと事業者目線であらためて感じた。

#### 〈委員〉

まず1点お伺いしたいのが、指標4：リピーター率の目標設定について。先ほどの説明では、新規のお客様の獲得ということで、リピーター率を下げるといったお話だったと思うが、ニセコが好きで何度も足を運んでくれるリピーターをないがしろにできないと思っていて、割合を上げつつ、並行して新規獲得していく形が望ましいのではないかなと思うが、いかがか。また、MICEについて、具体的な取組を教えていただきたい。

#### 〈米田主査〉

リピーター率について、委員おっしゃる通り、ニセコが好きで何度も足を運んでいただく方はすごく重要だと認識している。一方で、今までニセコは選択肢に入っていなかった方、そもそも認識していなかった方に対して、ニセコのたくさんの魅力を訴求していくことも重要だと考えており、指標として設定したところ。確かに目標だけを見ると、ニセコに魅了された方の数が減ってもいいという風に見えるので、資料の見せ方については今後工夫していきたい。

#### 〈川埜係長〉

MICEについて、2年前から、ニセコ・倶知安の両観光協会と、MICEの強化に向けて、施設やおもてなしの内容等のコンテンツを100個整理して、資料として用意しているところ。実際に2023年度には、大手航空会社の中国の支店長クラス約20名が来町し、用意したコンテンツを活用いただくといったケースも実績としてあった。100人、200人規模というよりは、10人、20人単位のいわゆるマイクロMICEに対応するために、資料を用意している。

〈委員〉

私自身も問い合わせを受けることがたまにあるので、今後は観光協会にお繋ぎさせていただく。あと、観光の見える化については、すごくいいのではないかな。

〈委員〉

指標2：延べ宿泊者数について、2028年度：80万人が目標ということで、もちろん観光地として高みを目指すという意味だと思うが、受け入れるだけのキャパがあるのか疑問に感じている。宿泊業や飲食業の方と話をしていて、「やめたい」とか「もうやめようと思っている」といった話も耳にするし、雇用を確保できるとなっても、住む場所がないという問題もある。いろいろと動いているのは承知しているが、ある意味過渡期に来ているのではないかなとも思うので、中間点検に向けてそのあたりも再整理が必要ではないかな。

〈委員〉

一事業者、一町民として、「サステナブルツーリズム」とは何なのだろうかというのをあらためて感じた。環境の観点だけではなく、サステナブルにビジネスを実施できるかどうかも重要なポイントである。人数を増やすという目標もいいが、雇用などの足元の課題がある中で、受け入れる側のキャパもオーバーしてしまうのではないかな。

観光で潤うということと、地域コミュニティへの貢献はイコールで結ぶのが難しいと感じている。住宅もいろいろ整備しているが、果たしてそこに住むことのできる若いファミリーがどれだけいるのかも疑問だし、観光客を増やしたいのであれば、そうした方が住めるような価格帯の住居を整備すべきと感じている。周りにも、雇用の不安定性などでもうニセコには住めないといって転出される方や、事業を「やめたい」という方がここ数年で多くなってきている印象がある。

ニセコはもちろん観光のまちだと思うが、冬にたくさん人が来ればいいのか、それとも若い人が住み続けたいまちにしたいのか、といった観光以前のまちづくりについて、再検討する時期に来ているのではないかなと感じている。

〈委員〉

指標1：観光消費額について、非常に順調に推移していると思うし、多少為替の影響もあるかもしれないが、このままでいいのではないかな。

一方で、再設計してもいいのではないかと考えているのが、指標2以降で、どのようなお客さんに滞在してもらおうのかというイメージと指標の間に乖離があるのではないかな。延べ宿泊者数を指標に設定しているのは、単なる頭数だけでなく、泊数も視野に入れているからだと思うが、そうであればリピーター率は高い方が望ましい。平均泊数を指標化していないので、「一見さん」に多く泊まってほしいのか、リピーターに長く泊まってほしいのか、リピーターであれば1泊でいいのか、そのあたりを再整理してもよいのではないかな。環境のインパクトを考えると、新規顧客が次々来るよりは延泊してもらった方がいいし、ホテル側も連泊の方が人不足を受けたやりくりの面からもいいのではと思うので、平均泊数という指標について検討されるといいのではないかな。

リピーター率を下げ、新規顧客を獲得するという思想はよくわかるが、観光地として成熟するにつれて、基本的にはリピーターが増えていくし、環境へのインパクトや満足度という点でもリピーターの方が望ましいと考えられる。非リピーターと定義するのではなく、例えば家族連れのお客さん、札幌からのお客さんを増やすといった具体的なイメージが共有されれば、事務局から説明の合った指標にもはまってくるのではないかと。そのためには、調査をしなければならないので、どれだけの調査コストを確保できるか理解していない中で恐縮だが、新規のお客さんといったざっくりとしたことではなく、具体的なイメージの設定をぜひ検討していただきたいというのが2点目である。

1点お伺いしたいのが、指標5：宿泊者1人1泊当たりCO<sub>2</sub>排出量について、先ほどの事務局の説明では旅行者が減少すると、数値が高めに出るとのことだったが、どのように算出しているのか。

#### 〈米田主査〉

算出に当たっては、ごみの量や、事業者が利用した水、電気の使用量等を総計し、延べ宿泊者数で除して算出している。水、電気の使用量は単純に宿泊者の数に比例するものではなく、固定費的な側面もあるため、宿泊者数が少ないと数値が高めに出るものとなっている。

#### 〈委員〉

大変意欲的な指標だと思うが、旅行者数に左右される指標となると、せっかく良い取組がなされてもそれが見えづらく、町民の方も変化を理解しづらいと思うので、固定費的な部分については除いたうえで算出するべきではないか。

価格の件について、少数の定住人口で多数のお客さんをおもてなしするという構図が今後大きく変わらないとすると、価格を変えざるを得ない状況になっていくのではないかと。景観などのいわゆる公共財については、地元の方は税という形でその一部を負担しているので、価格が変わるのは当然のことで、問題ないと考えている。公共性があまりない民間サービスにおいても、あまりにも露骨であれば問題は生じるかもしれないが、地元向け割引、ローカルプライスといったポジティブな表現であれば、ニセコにいらっしゃるお客さんの理解は得られるのではないかと。メッセージ性さえ間違わなければ、ニセコ町のビジョンに基づくものということで、良いのではないかと考えている。

#### 〈委員〉

1点目は、リピーター率と満足度の関係性について。満足度の30%というのは、満足だったと回答した人の割合が30%なのか、30%の満足度なのか、どちらか。

2点目、リピーター率の設定について、リピーターの数確保しながら、80万人泊に向かっていく構造が健全だと思っている。足元の不満要素を改善しない限りは、なかなかリピートに繋がらないのではないかと。新規顧客の確保とリピーター確保では全くコストが異なるし、80万人泊目標で、リピーター率70%とすると、リピーター=56万人泊となるので、不満に繋がりにくい要素を取り除き、リピーター率を高める取組の方が望ましいと

考える。

3点目、環境指標について、1人1泊当たりというのは、割り算なので、人数が増えるとそれだけゴミや移動量が増えていく。CO<sub>2</sub>の総排出量を減らすために、人の数を減らせばいいかというところではないと思うので、人数が増えても総量は減っているといった表現になるよう見せ方を工夫すべき。

#### 〈委員〉

リピーター率について、ニセコの温泉ファンをご案内する機会があるが、それをきっかけにニセコのお酒やスイーツに出会うといったことも考えられる。そこで新たな火がついて、ニセコのリピーターになるというケースもあると思うし、ニセコはたくさんの魅力が集まっているので、特定の魅力にしか気づいていない人に、他の魅力を訴求するという方法も有効ではないか。

例えばニセコまちの取組をご案内するために、現場に連れていくということもあるのだが、なかなかすべてをお伝えするのは難しい。取組がわかるビジターセンターのようなものが整備されると、理解が深まると思うし、魅力的な施設の横の連携が充実してくれば、日帰り客の宿泊化も促進されるのではないか。

#### 〈委員〉

指標6：観光で生活が豊かになると思う町民の割合について、具体的に何が豊かになると思うかで町民の考え方は変わってくるのではないか。価格の問題とも関連してくるが、昔と比べると外食代やリフト代が高くなったりしている一方で、海外と比較するとまだ安いという話もある。ただ、町民は今までの価格等と比較しているもので、そこに温度差のようなものがあるのではと感じている。倶知安町ではローカルプライスの動きが出てきていると新聞に掲載されていたが、ニセコ町でもぜひ早く取り組んでいただきたい。

あわせて、「豊かになること」について、観光事業者だけでなく、観光に携わっていない人の暮らしが具体的にどう豊かになっているかまで周知していければ、目標の達成に繋がってくるのではないか。

#### 〈委員〉

価格問題に関連して、モイワスキー場の取組をご紹介させていただく。

コロナ明けのタイミングでリフト券の価格を引き上げたが、一方でニセコ・蘭越町民向けのローカル価格を設定し、昨年からは対象を全道に広げたところ。日本人価格、外国人価格にすると、ハレーションも想定されるため、現在の形となっているのだが、当初懸念されたゲストの減少もなく、来訪者のリアクションもぜひ継続してほしいといった形である。「あまり混雑していないこと」も魅力の1つと考えているので、経営的な側面からの値上げとのバランスを見ながら、継続して取組を続けていきたいと考えている。

#### 〈委員〉

本日の審議会では2022年に制定したビジョンのKPIの達成状況等の進捗が示された中

で、具体的な取組の紹介もなされたが、取組と KPI の進捗との関連性が分析されていないので、しっかりと分析いただきたい。良かった点、悪かった点への早めのアクションがビジョンの進捗にあたって重要で、すでに達成した KPI については、ぜひ上方修正を検討していただきたい。

リピーター率、満足度に関連して、足元の満足度がかなり下がっているというのが気になっている。その要因は何なのか、2次交通の問題か、価格の問題か、いろいろと考えられると思うが、顧客満足度につながるような政策に対して、ぜひ宿泊税を充当していただきたい。

1人1泊当たり CO<sub>2</sub>排出量については、世界的なトレンドという中で、総量を減らしていくことも非常に重要である。民間事業だけでできること／できないことの両方があると思うので、町に協力できることは協力しつつ、取組をしっかりと実施してもらえればと思う。

宿泊者数の増加については、冬の各宿泊施設のキャパシティがいっぱいな中で施設を増やすのか、大きな課題である夏の宿泊者を増やすのか、の2通りあると思っている。夏については、ひらふエリアでは半数近くが営業していない一方で、ニセコ町の事業者は通年で営業されている事業者が一定数いる印象である。地域一体となった取組としてのローカルプライス制もあると思うが、二重価格といった風評被害も考えられる。適正価格での取組の発信については、これも民間だけでは難しい部分もあるので、行政も一体となって積極的な PR を実施していただければと思うし、早めの取組が重要ではないか。

#### (4) 議題 2

「ニセコ町 宿泊税 使途について（資料 2）」について事務局より説明を行った。

##### 〈川埜係長〉

観光審議会でもご議論いただいた宿泊税については、5段階の段階定額制で、今年の11月1日からスタートしている。2025年度の税収は約1億6,000万円を見込んでいて、使途については、持続可能な観光の振興を図る施策に充てることとしている。宿泊税の導入にあたっては、予約者への対応やシステム改修等事業者への様々な事務負担軽減の観点で、プッシュ型の交付金を準備しており、ほぼすべての事業者に交付済という状況となっている。

使途の決定にあたっては、最終的に町長が予算提案を行い、議会の議決を経て執行するという流れであるが、その過程において、事業者、町民からご意見をいただきながら、観光審議会でお諮りしたうえで、作業を進めていくというプロセスを想定している。

今年度の使途決定にあたっては、9月から個別に事業者回りをしつつ、モイワ、アンヌプリ、東山の3地区の事業者との意見交換や、使途検討会の3回の開催、エリア内の宿泊施設の支配人会でご意見をお伺いしたうえで、本日の観光審議会という流れとなっている。

使途については、観光振興ビジョンとも連動したうえでと考えており、今年度については約6,500万円の税収を見込んでいる。まずは、足元の大きな課題として、地域内の交通の充実を求めるとご意見も多いことから、ニセコ周遊バスの運行内容拡充や、昨年度より実施している冬季タクシー不足対策の増台、カーシェアの通年化、夏のスカイバスと接続す

るアンヌプリシャトルの運行等に充当できればと考えている。また、冬季のモイワ-アンヌプリ間の林道の除雪が観光客の利便性に繋がるというご意見もいただいたので、今冬からの実施を予定している。

使途の柱の2つ目の環境負荷の軽減にあたっては、今年度に町が環境省の補助金の採択を受けたところ。地域の脱炭素化、再エネ充実を図っていくにあたって、宿泊税も活用し、補助率を引き上げることにより、環境負荷軽減を促進できればと考えている。スケジュールとして、事業者が今年度これから施設整備に取り組むのは難しいと思うので、宿泊税を活用した取組については、令和7年度以降しっかりと活用できるよう、いったん基金に積み立てることを想定している。

令和7年度の使途については、引き続き地域内交通の充実が必要と考えており、ドライバーの確保が難しいとお伺いする中で、現在独自で運用されている事業者との連携や、広域的な交通の充実に活用できればと考えている。

また、前段でご説明した環境負荷軽減の取組に加えて、特定地域づくり事業協同組合の検討やスポットワークの活用により事業者からよくご意見をいただく人手不足への対応も図っていきたいと考えている。

議題1でも話題に上がったニセコ価格問題については、そういったネガティブ情報をどう払しょくするのか、あるいはニセコの魅力、正しい情報をどのように伝えていくかを考えながら、夏のみならず春、秋のPRも検討しているところである。

リゾートエリアの坂道で冬に大型バスがスタックしてしまう箇所があるというご意見もいただいたところで、宿泊税の活用有無にかかわらず、町道管理部署と連動して検討を進めるとともに、ごみ問題も切実な課題としてお伺いするので、関係部署と連携して対応できればと考えている。

## (5) 意見交換（議題2）

議題2について、意見交換を行った。

### 〈委員〉

個人的には宿泊料金と連動して税率も変動する定率制でいいのではと思うが、町の財源として宿泊税が正式に動き始めたのは素晴らしいことだと思っている。

地域の方が豊かに暮らせる、豊かな心持ちでいられるという観点では、インフラ整備やバス充実に使われることは非常にいいのではないかと。ネガティブ情報の払しょくにあたっては、事実である部分もあると思うが、ニセコファンの方、日本人の方が継続してきていただくためにもぜひ注力していただきたい。価格設定については、先ほども意見があったが、ぜひ行政に先導していただければと思うし、インバウンドのみならず、日本人の方にも足を運んでいただくことが長期的にはプラスになると感じるので、ぜひその充実もお願いしたい。

### 〈委員〉

11月1日よりスタートした宿泊税について、今のところ現場では大きな問題は生じてお

らず、他の宿泊施設からもそのような話は聞かないので、お客様からもご理解をいただけていると実感している。現場の状況等は随時共有できればと考えているが、次のステップは、お客様が宿泊税がどのように観光振興に活用されているかを可視化することであり、それは事業者、町民も求めていることではないかと思う。

議題1でもあった顧客満足度、リピーター率については、お客様の不満を取り除くことが、目標の達成にも繋がると考えるので、ぜひそうしたところに宿泊税が有効的に活用されていくことに期待している。

#### 〈委員〉

価格設定について、弊社では今冬に倶知安町が実施する町民割のスキームに参画するので、ニセコ町での検討にあたって、お客様の反応や認知状況などを審議会の場で共有させていただければと考えている。

宿泊税の使途について、宿泊客からいただいた税である以上、観光振興に用いるのは大前提だが、地域の事業者や町民もその効果を感じられるような取組に使うことも大変重要だと本日の審議会を通じて感じたし、効果の見える化は観光で生活が豊かになると思う町民の割合の増加にも寄与するのではないか。

#### 〈委員〉

宿泊税の使途の流れ等は概ね理解したので、使途の周知と見える化の充実をお願いできればと思う。

「満足度」について、私が以前勤めていた企業では、従業員満足度の向上が顧客満足度の向上に繋がるといわれていたので、観光客の満足度向上にあたっては、地域住民の満足度の向上も必須だと思う。地域住民の豊かさについて、その座標軸は人それぞれ変わってくるが、必ずしもお金だけではないと思うし、むしろ地方の方が、人との縁やコネクションという部分が重要になってくると思うので、なかなか施策への反映は難しいかもしれないが、頭の中には入れておいていただきたい部分である。

#### 〈委員〉

他の委員からもご意見があったとおり、宿泊税をどのように町民に還元していくのが重要ではないか。地域で暮らす人、ビジネスを営む人がいてこそ、観光客の増加に繋がらざるを得ないのに、そこが資料などで見えてこず、個人的には方針にぶれを感じており、例えば周遊バスの増便についても、あまり利用されている場面を見ないので、そこに宿泊税を充当することには疑問を感じる。

地域の人材不足に関して、率先して取り組む事業者への支援という記載があるが、宿泊税を徴収する事業者のみが対応なのか否か等いろいろと不安を感じる部分も多いので、町としてのビジョンをしっかりと定めつつ、情報発信の充実もお願いしたい。

#### 〈委員〉

宿泊税がどのように使われるのかという点について、町民の方にもしっかりと理解いた

だけるための広報の充実は極めて重要だと考える。小・中・高の若い世代を含めてまちづくりを考えていただく機会に繋がるという観点からも重要だと思うので、使途に明記されてもよいのではないかと。

宿泊税の使途検討機会の1つとして、観光審議会が開催されているが、運営規則を拝見すると、その根拠が明記されていない。宿泊税の導入に向けてこの場で議論されてきた経緯もあるので、審議会を介さないことはないと思うが、使途について議論することを担保する、意思決定プロセスを見える化するという観点からも、規則上に明記されるとよいのではないかと。

#### 〈委員〉

冒頭、町長より町の税収が伸びている旨ご紹介があったが、税収の増加は喜ばしい反面、町民の負担感が何らかの形で増えているということであれば、その負担感を軽減することが必要で、宿泊税導入の効果もきちんと広報しなければ、住民満足度の向上にも繋がらないのではないかと。京都の取組は良いと思うので、ぜひ参考にして、効果の見える化に取り組んでいただければと思う。

ニセコールの社会的価値が高く評価されていることも大変喜ばしいこと。一方で、観光客はニセコ町、倶知安町を区別していないので、周知にあたっては倶知安町も一体になって取り組んでいただきたい。

#### 〈委員〉

ご紹介いただいた事業者、町民から寄せられた課題について、使途のイメージではある程度網羅されているのではないかと感じている。地域の方々が豊かで楽しそうに生活しているまちに、多くの観光客が足を運んでくれることを踏まえれば、地域が恩恵を感じられるような使途に充当してもらえればと思う。

1点確認で、想定税収が示されているが、想定を超えると基金に積み立てていくという理解でよいか。

#### 〈川埜係長〉

想定税収を超えた場合も基金化するし、税収に対して予算の執行が減った場合も基金に積み立てる予定である。また、使途として、将来の観光振興対策ということで、何かあった際に瞬間的に対応できるように、基金に積み立てるという考えも持っているので、今後サイクルを進めていく中で、積み立てる金額の妥当性についても考えていきたい。

#### 〈委員〉

全体の税収に対して、個別具体の課題に応じて対応されていくのかと思うが、それぞれのおよその割合が示されれば、イメージもつきやすいのではないかと。

#### 〈委員〉

観光の発展と住民の暮らしやすさが比例するのか否かについてわからないが、宿泊税が

地域にどのように還元されるのかがよくわかっていない方は多いのではないかと感じている。観光客が訪れることで、地域の暮らしがこれだけ豊かになっているのだと、親が子に説明できるような施策にぜひ使ってもらいたいし、観光客も自分が納めた税が何に使われるのかがきちんと理解できるような周知も必要ではないか。旅行をすることで、地域の方々の暮らしが豊かになるとわかれば、観光客満足度の向上にも繋がると思うので、旅行する側も受け入れる側もお互い感謝できるような、わかりやすい仕組みづくりをお願いしたい。

#### 〈委員〉

ご紹介のあった、タクシーの増台は対旅行者の観点からは相当効果的だと思っていて、お客さんの目につきやすい、理解しやすい取組であれば、宿泊税をお預かりする事業者の説明のしやすさにもつながってくるので、旅行者がきちんと用途を理解できるような仕組みにしていきたい。

#### 〈委員〉

現状宿泊客との間で大きなトラブルが発生していない中で、今後重要になってくるのは、納めた税が何に使われているのかをきちんとお伝えするということ。理解を得られれば、宿泊客の納得感にも繋がってくるので、ぜひわかりやすい周知をお願いしたい。

一点懸念しているのは、北海道で宿泊税を導入しようという動きがあること。宿泊客からすれば、ニセコ町、北海道と二重課税になるので、今後事業者向け説明会等もあると思うが、事業者の声をきちんと町がヒアリングして、北海道にお伝えしていきたい。

#### 〈委員〉

本日の審議会は、観光振興ビジョンのフォローアップ、宿泊税の用途にとどまらず、町としてどういうまちを目指していくべきかといったテーマも垣間見える場となったのではないかな。

ニセコ町に住んでいることに誇りをもって、たくましく生きてほしいという中で、観光の将来等については、今後の審議会でも議論を深めていければいいなと思う。

#### 〈川埜係長〉

委員からご指摘のあった周遊バスの実績をご紹介させていただくと、2022年度は約5,000人の乗車があり、無料で利用できる町民の数は、このうち約1,000人であった。2023年度については、約7,000人のご利用があり、町民利用は約1,500人であった。町民利用も年々増えている中で、今後も拡充できればと思うし、冬だけでなく夏の運行等についても、今後検討したいと考えている。

観光客の訪問による地域還元という点では、寄付付き商品を販売し、その寄付をニセコの森づくりに役立てるといった取組が3年ほど実践されているところ。そうした取組を町として応援しつつ、観光客の地域貢献意識の醸成を図っていきたいと考えている。

## (6) 片山町長挨拶

議題のみならず、様々な良いご意見を頂いたので、事情が許せばぜひ審議会の回数を重ねて、今後の観光について、みなさんと考えていきたいと思っている。

かつてスキー客が大幅に減少した中で、危機感をもってニセコリゾート観光協会を設立したり、ニセコの景観、環境を守るために、乱開発をさせないという覚悟をもって景観条例、環境基本条例、環境基本計画を制定したときもそうであったが、地域の方々の取組があつて、今日に至っているという歴史がある。

現在地域内での経済循環を促進していくために、地域デジタルポイント制度の検討を進めており、ローカル割引にも繋がっていくものと思っているので、地域のみなさんのご理解も得ながら早期に進めていければと考えている。

本日の審議会で、我々の取組の広報不足を痛感したところで、いつでもご意見をお寄せいただくとともに、意見交換できる場を今後も設けていきたいと考えているので、引き続きよろしく願いしたい

## 5 その他

事務局から、今後の審議会に関するお知らせがあつた。

以上